

— 部門別の動き —

部門別の動き

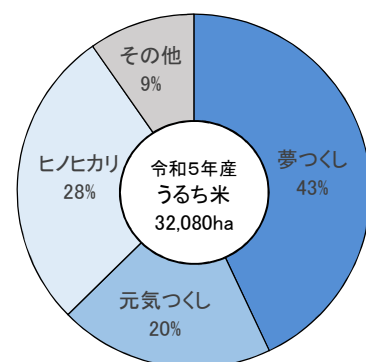
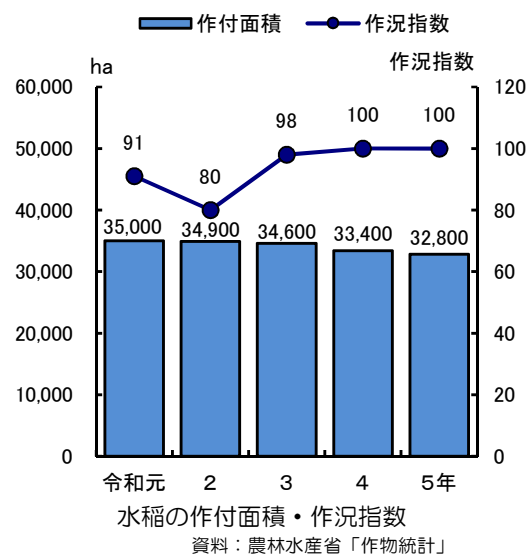
1 農業

(1) 水田農業

〇米

(作況指数は100の「平年並み」)

- ・作付面積は、前年に比べ600ha減の32,800ha。生産量は6,600t減の157,400t。10a当たりの収量は480kg、作況指数は100の「平年並み」。
- ・これは、6月下旬から7月上旬の日照不足により全もみ数が平年に比べ少なかったものの、出穂後から好天が続き、登熟が良かったことが主な要因。
- ・うるち米全体に占める県育成品種の割合は、前年並みで「夢つくし」が43%、「元気つくし」が20%。

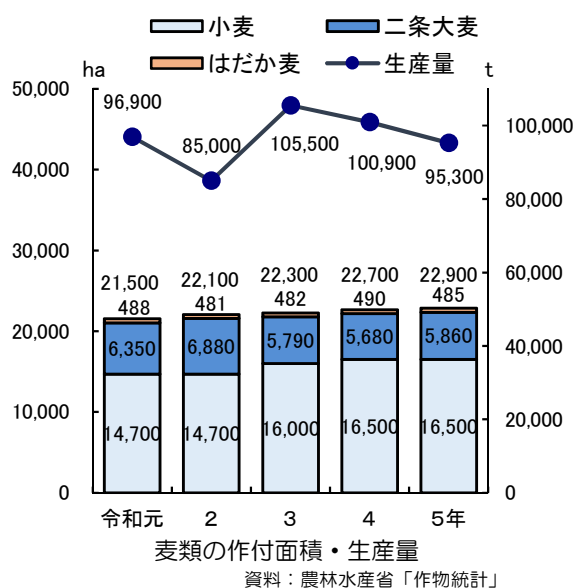


〇麦

(麦は6年連続で豊作)

- ・作付面積は、前年に比べ200ha増の22,900ha。生産量は平年※に比べ12%増の95,300tとなり、6年連続で豊作。
- ・これは、適期播種や排水対策の徹底により穂数及び粒数を確保できたことが主な要因。
- ・小麦の生産量は、平年に比べ14%増の70,000t、二条大麦は7%増の23,600t。
- ・ラーメン用小麦「ラー麦」の作付面積は、前年並みの1,870ha。生産量は平年に比べ5%増の7,368t。

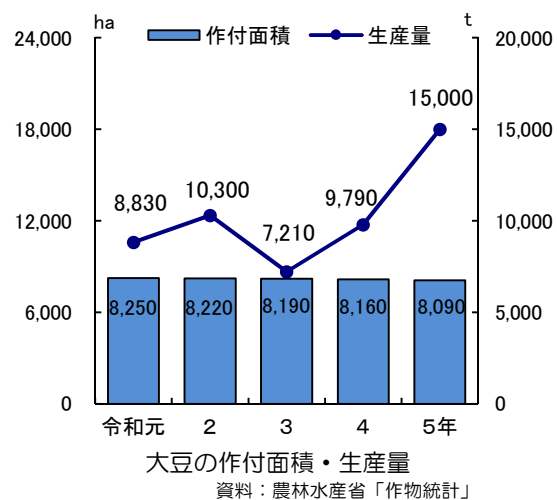
※生産量の平年値：平成28年産～令和4年産平均（直近7か年のうち最高及び最低を除いた5か年平均）。



○大豆

(大豆の作付面積は前年並み、生産量は4,316t増)

- ・作付面積は、ほぼ前年並みの8,090ha、うち令和4年から本格栽培を開始した大豆新品種「ふくよかまる（品種名：ちくしB5号）」の作付面積は4,366ha。
- ・生産量は、平年に比べ4,316t増の15,000t。
- ・10a当たりの収量は平年比143%の185kg。
- ・これは、出芽から着莢期まで適度に降雨があり、莢数が多く確保されたことが主な要因。

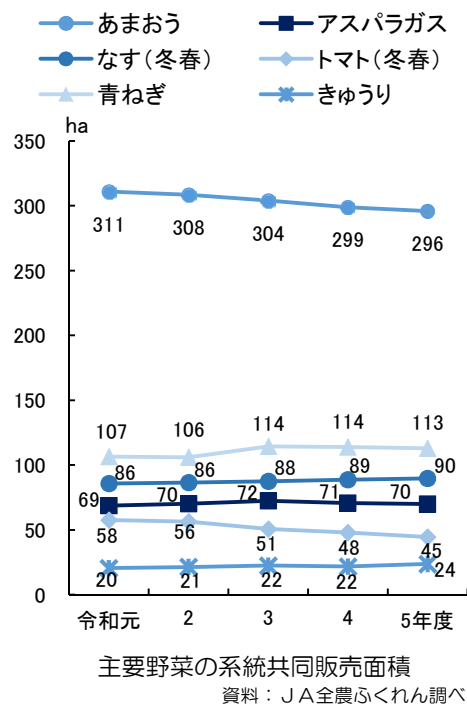


(2) 園芸・特産

○野菜

(「あまおう」の販売単価は20年連続で日本一)

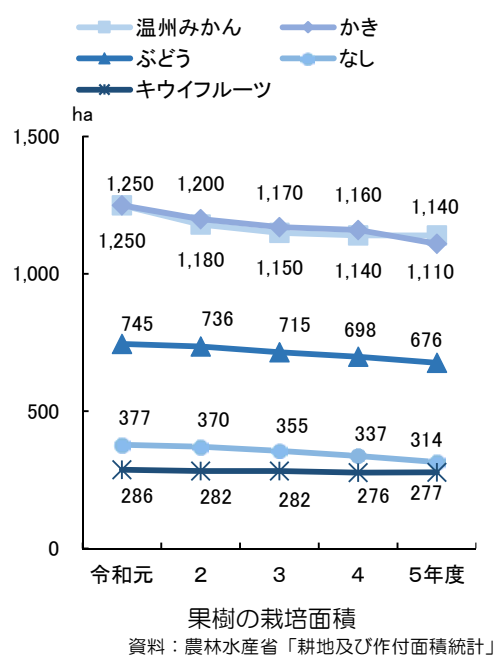
- いちご「あまおう」の作付面積は、前年産に比べ3ha減の296ha。販売量は、収穫期間を通して高温で推移したことや冬期の日照不足の影響により収穫量が減少し、前年産に比べ9%減の8,929t。販売単価は1,683円/kgとなり、20年連続日本一。販売金額は150億円。
- なすは、授粉作業の省力化と収量向上を目的とした省力性品種の導入率が、前年産から1ポイント増の98%。
- アスパラガスの作付面積は、前年産に比べ0.9ha減の69.9ha。1戸当たりの作付面積は19.4aと、10年前の平成25年産と比べて1.1倍に拡大。
- 露地野菜の令和4年産作付面積は、ほうれんそう等の作付が減少したことにより、前年産から46ha減の3,194ha。



○果樹

(県育成品種の作付けが拡大)

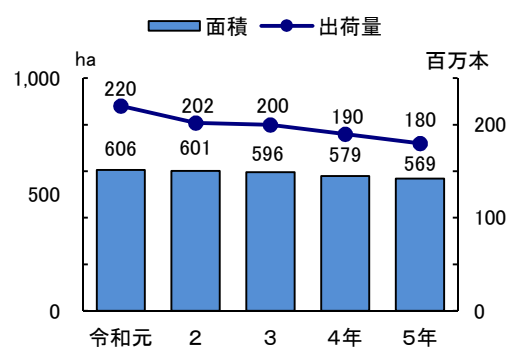
- 温州みかんの栽培面積は、前年と同じ1,140ha。県内で育成された「早味かん」や「北原早生」の栽培面積は、前年比5ha増の182ha。生産量は、夏期の高湿少雨によって日焼け果や、小玉果が発生し、前年比3%減の2,694t。
- かきの栽培面積は、前年に比べ50ha減の1,110ha。県育成品種「秋王」の栽培面積は41haと微増。成園化が進展した一方で、梅雨時の寡日照により生理落果が増加し、生産量は、前年同様の171t。
- キウイフルーツの栽培面積は、前年より1ha増の277ha。県育成品種「甘うい」の栽培面積は、前年より2ha増の22ha。生産量は、夏期の高湿乾燥で小玉傾向であったものの前年並の290t。



○花き・花木

(花きの作付面積、出荷量は前年並み)

- ・花きの作付面積は、569haで前年よりやや減。作付面積全体の3割を占めるキクは前年に比べ3ha減の192ha。
- ・花きの出荷量は、前年に比べ5%減の180百万本。



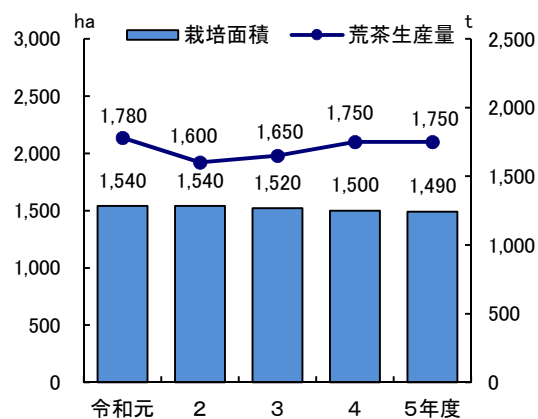
花き出荷量及び面積

資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

○特産（茶）

(全国茶品評会「玉露の部」で八女市が23年連続産地賞を受賞)

- ・茶の栽培面積は前年並みの1,490ha。八女伝統本玉露の栽培面積は、前年に比べ0.4ha減の11.7ha。
- ・「さえみどり」や「おくみどり」といった優良品種の栽培面積は、前年に比べ1ha減の198ha。
- ・荒茶の生産量は、前年に同じく1,750t。
- ・一番茶の荒茶価格は、普通煎茶が前年に比べ3%低下し3,197円/kg、玉露が前年に比べ5%低下し5,536円/kg。
- ・八女茶は、令和5年度の全国茶品評会において、八女市が「玉露の部」で23年連続となる産地賞*を受賞。



茶の栽培面積と荒茶生産量

資料：栽培面積は農林水産省「耕地及び作付面積統計」
荒茶生産量は農林水産省「作物統計（工芸作物）」

※産地賞：茶種ごとに成績優秀な市町村に対し褒賞するもので、同一市町村から3点以上出品があり、審査成績の上位3点の合計審査得点をもって決定。

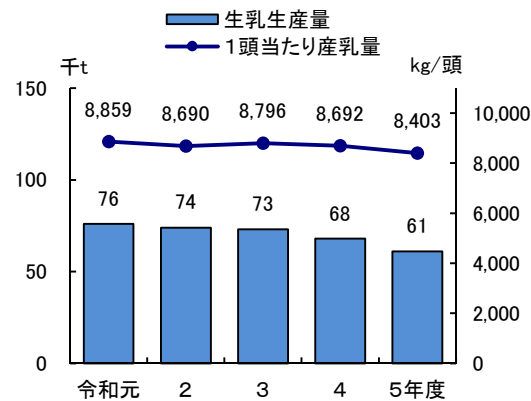
(3) 畜産

○乳用牛

(生乳生産量は前年比 7,599t 減)

- ・乳用牛飼養頭数は、飼養戸数の減により前年に比べ1,000頭減の10,700頭。1戸当たりの飼養頭数は、前年並みの62.9頭。
- ・生乳生産量は、前年に比べ7,599t減の60,543t。
- ・令和4年度の高能力牛※の飼養頭数は、飼料価格高騰の影響により、前年度に比べ64頭減の548頭。搾乳牛全体に占める割合は12.5%。
- ・経産牛1頭当たりの産乳量は、前年に比べ289kg減の8,403kg。

※高能力牛：年間産乳量が12,000kg以上の乳牛のこと。

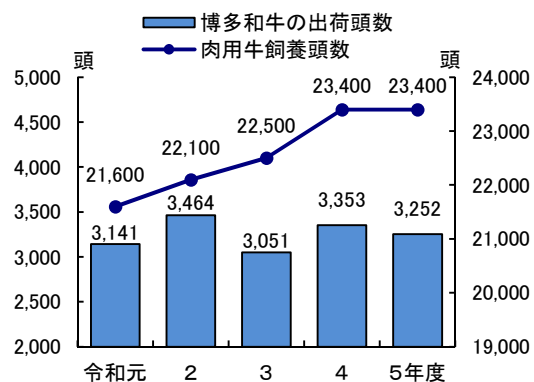


生乳生産量、経産牛1頭あたりの産乳量
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」等

○肉用牛

(「博多和牛」出荷頭数は101頭減の3,252頭)

- ・肉用牛飼養戸数、飼養頭数は、前年から横ばいの169戸、23,400頭。1戸当たりの平均飼養頭数は138.5頭。
- ・「博多和牛」の出荷頭数は、前年に比べ101頭減の3,252頭。
- ・年平均枝肉価格は、物価高騰に伴う消費者の牛肉の買い控えにより、前年に比べ和牛は15.5%、交雑種は2.5%、乳用種は16.1%低下。

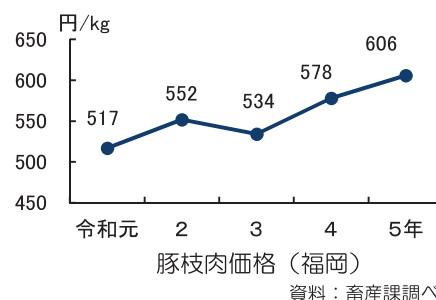


肉用牛の飼養頭数と博多和牛の出荷頭数
資料：畜産課調べ

○養鶏・養豚

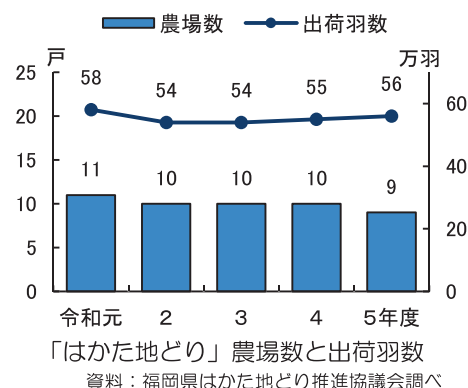
(豚の飼養頭数は78,800頭、鶏卵価格は前年比43%上昇)

- ・豚の飼養頭数は、飼養戸数の減により、前年に比べ3,200頭減の78,800頭。豚肉価格は、前年に比べ4.9%上昇の606円/kg。
- ・鶏卵生産量は、飼養戸数の減少により、前年に比べ7,763t減の35,486t。鶏卵価格は、令和4年10月から鳥インフルエンザ発生による鶏の殺処分増加の影響が長引き、全国的に流通量が減少したため、前年に比べ43%上昇の309円/kg。



(「はかた地どり」の出荷羽数は前年度並み)

- ・肉用鶏飼養羽数は、前年並みの114万羽。
- ・「はかた地どり」の令和5年度の出荷羽数は、農場数は減少したが、前年度並みの56万羽。
- ・「はかた一番どり」の令和5年度の出荷羽数は、前年度並みの49万羽。



○家畜衛生

(関係機関と連携し、家畜防疫体制を強化)

- ・令和5年12月、久留米市において、鳥インフルエンザ等の発生を想定し、コンテナを利用した家さん等の効率的な処分方法について、家畜保健衛生所、関連業者と検討。
- ・韓国の釜山広域市で感染が確認されたアフリカ豚熱の県内への侵入を防止するため、令和6年2月に県観光局と連携し、県内を訪問する外国人観光客に対し防疫対策を周知。



コンテナを利用した家さん等の効率的な処分方法の検討

(4) 福岡県農業の主要指標

項目 \ 区分	単位	福岡県	全国	全 国 シェア(%)	全 国 ランク	備 考
農 家 数	戸	41,351	1,747,079 (1,709,485)	2.4	19	2020年農林業センサス 注：() は都府県
うち販売農家	戸	27,187	1,027,892	2.6	17	
自給的農家	戸	14,164	719,187	2.0	20	
農業経営体数	経営体	28,375	1,075,705 (1,040,792)	2.6	17	2020年農林業センサス 注：() は都府県
うち個人経営	経営体	27,239	1,037,342	2.6	17	
団体経営	経営体	1,136	38,363	3.0	9	
基幹的農業従事者数	人	38,077	1,363,038	2.8	14	2020年農林業センサス (個人経営体)
うち女性の割合	%	40.3	39.7	—	—	
65歳以上の割合	%	66.2	69.6	—	—	
耕地面積	ha	78,400	4,297,000 (3,156,000)	1.8	15	令和5年耕地面積調査 注：() は都府県
うち水田面積	ha	63,500	2,335,000 (2,113,000)	2.7	14	
畑面積	ha	14,900	1,962,000	0.8	26	
水田率	%	81.0	54.3 (67.0)	—	12	
1戸当たり平均耕地面積	a	189.6	246.0 (184.6)	—	21	
農業産出額	億円	2,021	90,147	2.2	16	令和4年生産農業所得 統計 注：全国は都道府県の 合計値
うち米	億円	328	14,015	2.3	15	
麦類	億円	32	663	4.8	3	
豆類	億円	15	731	2.1	8	
野菜	億円	686	22,298	3.1	10	
果実	億円	266	9,232	2.9	11	
花き	億円	185	3,493	5.3	3	
その他作物	億円	60	717	8.4	1	
工芸農作物	億円	26	1,551	1.7	12	
畜産	億円	402	34,673	1.2	25	
乳用牛飼養頭数	頭	10,700	1,356,000	0.8	21	令和5年畜産統計調査 注：採卵鶏は成鶏めす 羽数
肉用牛飼養頭数	頭	23,400	2,687,000	0.9	25	
豚飼養頭数	頭	78,800	8,956,000	0.9	27	
採卵鶏飼養羽数	千羽	3,454	172,265	2.0	21	
ブロイラー飼養羽数	千羽	1,185	141,463	0.8	21	

(5) 福岡県農業の全国的地位

項目		区分	単位	全国順位 全国計	主 産 県					全国シェア		全国面積 県面積 (単位:ha)
					1	2	3	4	5	面積	収穫量	
麦 類	4 麦 計	t	2	1,326,000	北海道 723,400	福岡 95,300	佐賀 94,700	栃木 49,100	愛知 34,800	8%	7%	295,700 22,900
	(うち小麦)	t	2	1,094,000	北海道 717,100	福岡 70,000	佐賀 50,900	愛知 34,300	三重 26,800	7%	6%	231,700 16,500
	(うち二条大麦)	t	3	151,300	佐賀 42,800	栃木 35,300	福岡 23,600	岡山 8,800	熊本 8,240	15%	16%	38,900 5,860
	(うちはだか麦)	t	4	16,600	愛媛 4,590	大分 2,670	香川 2,300	福岡 1,660	佐賀 1,000	9%	10%	5,520 485
野 菜	い ち ご	t	2	161,100	栃木 24,400	福岡 16,800	熊本 11,700	愛知 10,600	静岡 10,400	9%	10%	4,850 425
	み ず な	t	2	39,000	茨城 19,300	福岡 3,280	京都 2,730	兵庫 1,530	滋賀 1,410	9%	8%	2,320 216
	冬 春 な す	t	3	114,600	高知 39,600	熊本 25,500	福岡 14,200	愛知 7,190	群馬 6,390	10%	12%	1,030 103
	セ ル リ ー	t	3	29,300	長野 12,200	静岡 5,280	福岡 3,570	愛知 2,780	茨城 1,040	9%	12%	532 47
	こ ま つ な	t	3	120,100	茨城 25,100	埼玉 13,700	福岡 11,000	東京 8,360	群馬 6,700	8%	9%	7,390 624
	し ゅ ん ぎ く	t	2	26,000	大阪 3,330	福岡 2,470	千葉 2,430	茨城 2,120	群馬 2,090	10%	8%	1,730 178
	ア ス パ ラ ガ ス	t	5	26,000	北海道 3,500	熊本 2,320	佐賀 2,270	山形 1,950	福岡 1,810	2%	8%	4,360 86
	冬 春 ト マ ト	t	4	385,900	熊本 108,600	愛知 43,800	栃木 27,000	福岡 17,100	千葉 16,200	3%	4%	3,790 113
果 樹	キウイフルーツ	t	2	22,900	愛媛 4,790	福岡 3,990	和歌山 3,350	神奈川 1,140	群馬 828	14%	17%	1,860 256
	か き	t	3	216,100	和歌山 42,000	奈良 29,500	福岡 17,700	岐阜 16,200	愛知 15,200	6%	8%	17,800 1,120
	い ち じ く	t	5	10,143	和歌山 1,844	愛知 1,698	大阪 1,273	兵庫 1,170	福岡 849	8%	8%	831 69
	ぶ ど う	t	5	162,600	山梨 40,800	長野 28,900	岡山 14,600	山形 14,000	福岡 7,170	4%	4%	16,400 676
花 き	ガーベラ (切花)	千本	2	121,800	静岡 51,700	福岡 17,200	和歌山 10,600	愛知 8,980	千葉 6,260	15%	14%	75 11
	き く	千本	3	1,227,000	愛知 437,700	沖縄 216,500	福岡 68,300	鹿児島 58,400	長崎 47,200	5%	6%	4,092 195
	トルコギキョウ	千本	3	84,500	長野 13,200	熊本 10,000	福岡 7,100	静岡 3,860	山形 3,660	9%	8%	392 35
	洋ラン類 (鉢物)	千鉢	3	11,900	愛知 3,040	熊本 1,190	福岡 1,030	千葉 796	山梨 702	10%	9%	168 16
	ば ら	千本	3	188,700	愛知 35,600	静岡 17,900	福岡 12,900	山形 12,800	群馬 9,500	6%	7%	269 16
そ の 他 作 物 (庭園樹苗木等)		億円	1	135	福岡 39	三重 38	愛知 16	鹿児島 9	熊本 6	—	29%	—
特 産	茶	億円	5	471	鹿児島 154	静岡 132	三重 37	京都 36	福岡 24	4%	3%	36,000 1,490
	い 草	t	3	5,935	熊本 5,822	沖縄 33	福岡 31	高知 29	佐賀 10	1%	1%	393 3

注：麦類：5年産作付面積（子実用）・収穫量、野菜：4年産作付面積・収穫量

果樹：4年産結果樹面積（いちじくは3年産栽培面積）・収穫量、花き：4年産作付（収穫）面積・出荷量、

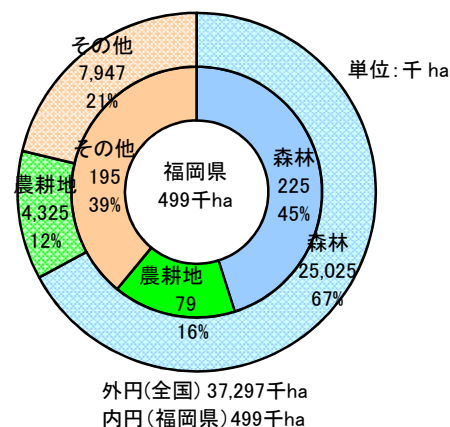
庭園樹苗木等：3年産出額、茶：4年産出額（生葉）、5年産作付面積・生葉収穫量（主産県）、

い草：4年産収穫量・作付面積 ※公益財団法人日本特産農産物協会「地域特産作物（工芸作物、薬用作物及び紙原料等）に関する資料」

2 林業

○ 森林率は45%、全国より22ポイント低い

- ・ 本県の森林面積は225千 ha で、県土面積に対する森林面積の割合である森林率は45%。
- ・ これは全国の森林率67%より22ポイント低い。



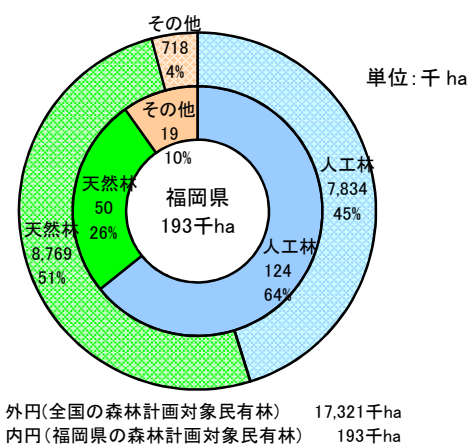
国土・県土に占める森林の面積

資料：福岡県：地域森林計画書（令和6年4月1日現在）
全 国：林野庁「森林資源現況調査（令和4年度）」等

○ 人工林率は64%、全国2位

- ・ 本県の民有林における人工林面積は124千 ha で、民有林に占める人工林の面積割合を示す人工林率は64%。これは全国の45%より19ポイント高く、全国2位。
- ・ 人工林と天然林を合わせた材積※は61,606千m³。

※材積：木材の体積で、単位は立方メートル。



人工林・天然林別の森林面積

資料：福岡県：地域森林計画書（令和6年4月1日現在）
全 国：林野庁「森林資源現況調査（令和4年度）」

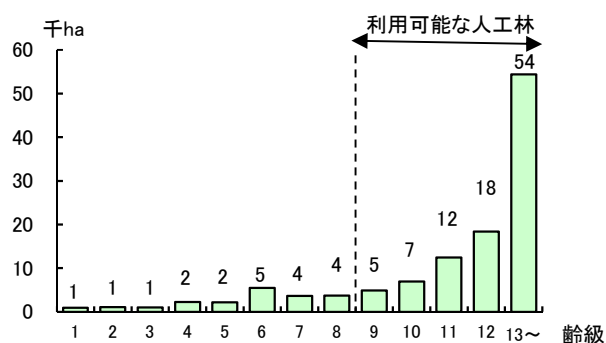
人工林・天然林別の材積 単位: 千m³

	人工林	天然林	計
全国	2,990,008	1,265,499	4,255,846
福岡県	57,702	3,904	61,606

資料：福岡県：地域森林計画書（令和6年4月1日現在）
全 国：林野庁「森林資源現況調査（令和4年度）」

○ スギ・ヒノキの資源が充実

- ・ 本県の人工林124千haのうち、スギ・ヒノキ林は117千ha。
- ・ このうち本格的に利用可能な41年生以上の面積は97千ha。



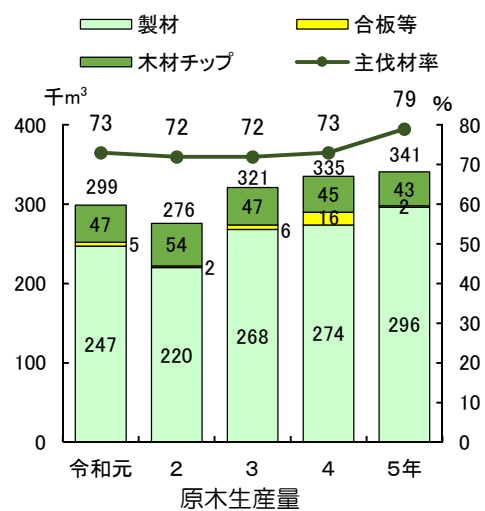
年齢級別のスギ・ヒノキ人工林面積

注：年齢級の単位は5年
資料：地域森林計画書

(1) 林業

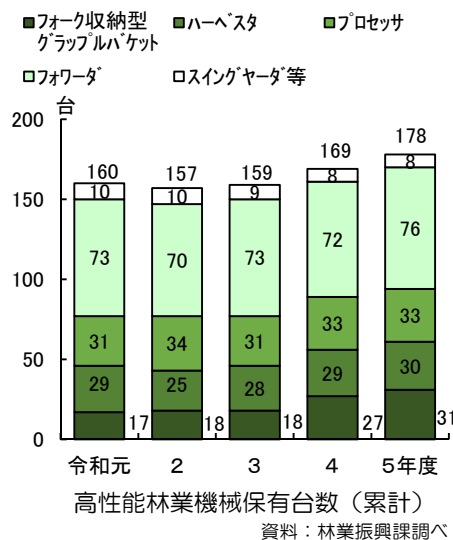
(原木生産量は2%増の341千 m^3)

- 令和5年の原木生産量は、主伐経費の助成や高性能林業機械の導入支援に加え、円安などの影響を受け、国産材の需要が高まったことから、前年に比べ2%増の341千 m^3 。
- 原木生産に占める主伐材の割合は前年に比べ6%増の79%。
- 原木の用途別では、製材用が296千 m^3 、合板等用が2千 m^3 、木材チップ用が43千 m^3 。



(高性能林業機械の保有台数は178台)

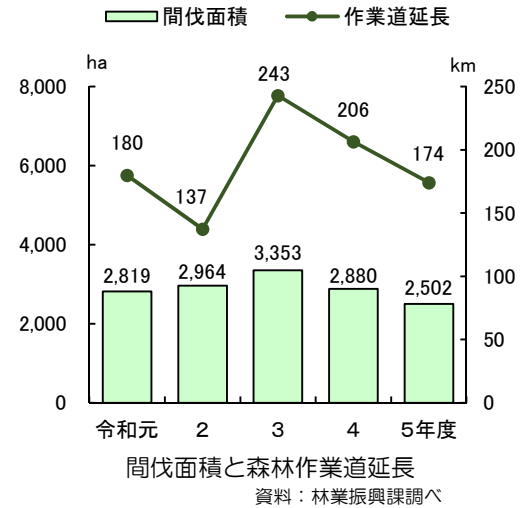
- 令和5年度の高性能林業機械の保有台数は、前年度から9台増の178台。
- これは、原木生産を効率的に行うため、立木の伐採・集積や作業道の開設に使用できるフォーク収納型グラップルバケットなどの導入が進んだことによるもの。



フォーク収納型グラップルバケット

(間伐面積は2,502ha)

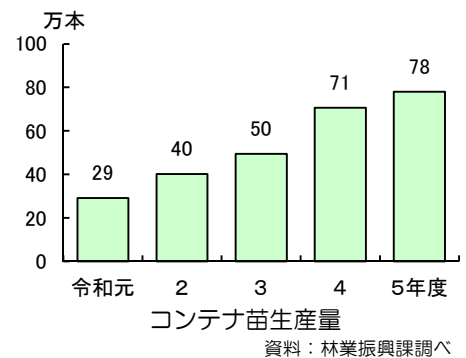
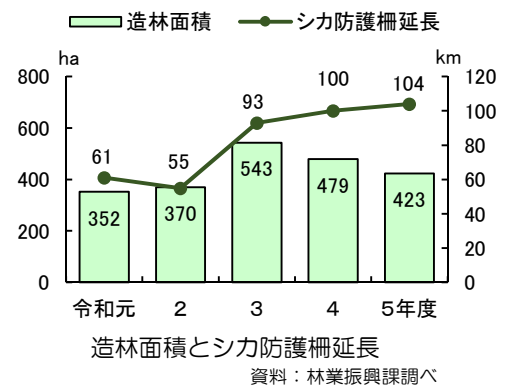
- 令和5年度の間伐面積は、前年度に比べ378ha減の2,502ha、間伐等と一体的に行う森林作業道の整備延長は、前年度に比べ32km減の174km。



(造林面積は423ha)

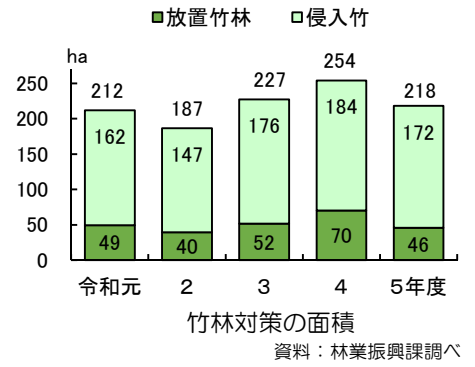
- 令和5年度の造林面積は、前年度に比べ56ha減の423ha。
- シカによる苗木の食害が多い地域では、苗木を保護するためのシカ防護柵を併せて設置し、5年度の設置延長は、4km増の104km。
- 年間を通して植栽可能なコンテナ苗※の生産量は、前年度に比べ7万本多い78万本まで増加。

※コンテナ苗：根鉢があるため、これまでの裸苗よりも活着率が高いことから、年間を通して植栽することが可能な苗。



(竹林対策の面積は218ha)

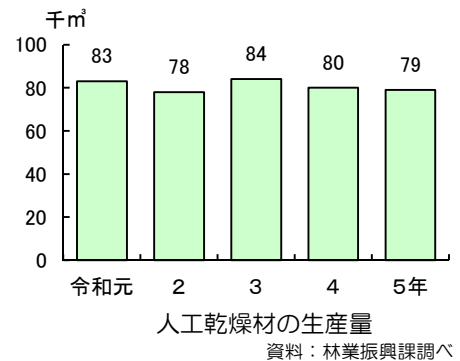
- ・令和5年度の放置された竹林の伐採とスギや広葉樹への植替えの面積は、前年度に比べ24ha減の46ha、人工林への侵入竹の伐採面積は、前年度に比べ12ha減の172ha。



(2) 木材産業

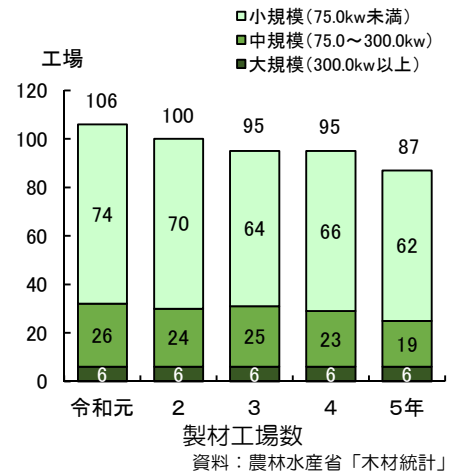
(人工乾燥材生産量は前年並み)

- ・住宅メーカーや工務店が求める曲がりや割れの少ない人工乾燥材の令和5年の生産量は、前年並みの7万9千 m^3 。
- ・県内の製材工場で生産している製材品に占める人工乾燥材の割合は、59%。



(製材工場数は87工場)

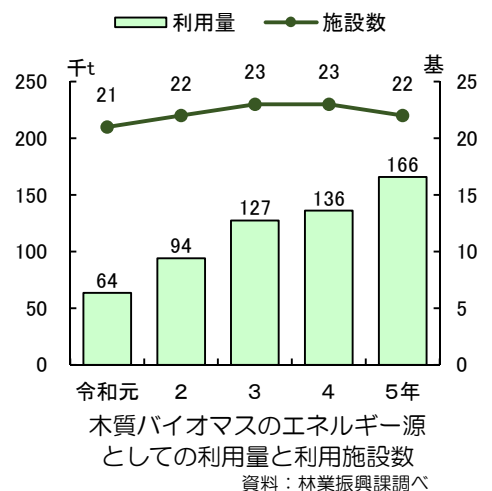
- ・令和5年の製材工場数は、前年から8工場減少し、87工場。
- ・製材品の製造能力別にみると、小規模、中規模工場ともに4工場減少し、大規模工場は横ばい。



(木質バイオマスのエネルギー源としての利用量が増加傾向)

- ・木質バイオマス※をエネルギー源として利用する施設は、主に温浴施設や発電施設、製材工場の人工乾燥施設で、施設数は前年から1減の22施設。
- ・令和5年の利用量は、前年に比べ22%増の16万6千t。
- ・これは、2年及び3年に稼働を開始した筑前町、苅田町の木質バイオマス発電所における利用量が順調に増加したことによるもの。

※木質バイオマス：再生可能な生物由来の有機性資源で、木本類（枝葉を含む）、竹、製材等残材、木質チップ、薪、木質ペレット、建築資材廃棄物。

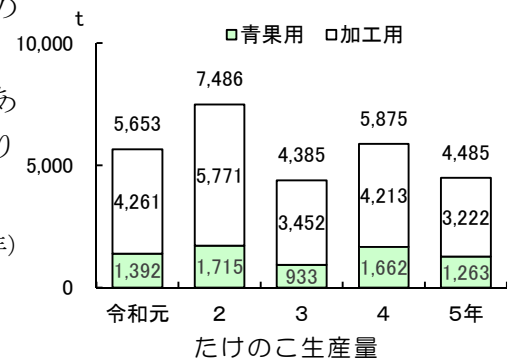


(3) 特用林産物等

(たけのこ生産量は24%減の4,485t)

- ・令和5年のたけのこの生産量は、前年に比べ24%減の4,485t。
- ・これは、主産地の八女地域が裏年※であったこととあわせて、3月下旬以降の急激な気温上昇と降雨により出荷期間が短縮したため、生産量が減少したもの。

※表年と裏年：竹は、通常2年に一度葉変わりするため、豊作年（表年）と不作年（裏年）が交互に現れる。

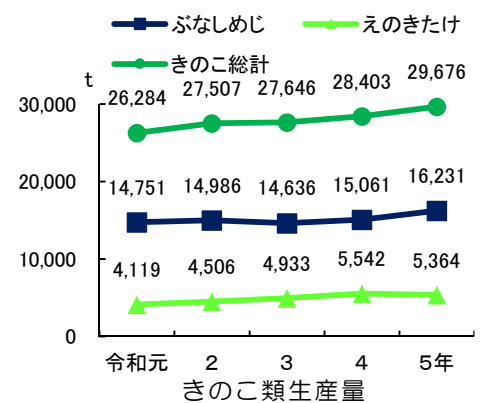


資料：林業振興課調べ

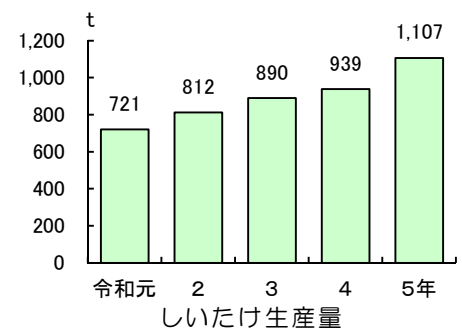
(きのこ類全体の生産量は5%増の29,676t)

- ・令和5年のぶなしめじの生産量は、前年に比べ8%増の16,231t。えのきたけの生産量は、前年に比べ3%減の5,364t。きのこ類※全体では前年に比べ5%増の29,676t。
- ・しいたけの生産量は、前年に比べ18%増の1,107t。
- ・これは、菌床しいたけ生産者が規模拡大したことが要因。

※きのこ類：生しいたけ、乾しいたけ、なめこ、えのきたけ、ひらたけ、ぶなしめじ、まいたけ、エリンギ、きくらげ類、ぬめりすぎたけ、ゆきれいたけ、王リンギを含む。



資料：林業振興課調べ



資料：林業振興課調べ

(4) 福岡県林業の主要指標

項目	区分	単位	福岡県	全国	全国シェア (%)	全国ランク	備考
民有林の状況							
面積	千ha	193	17,321	—	—	}	県 : 令和6年4月1日現在(地域森林計画書) 全国: 令和4年3月末現在(森林資源現況調査: 林野庁)
材積	千m ³	61,606	4,255,846	—	—		
造林面積	ha	423	19,441	—	—	}	県 : 令和5年度実績(林業振興課調べ) 全国: 令和3年度実績(2023年森林・林業統計要覧: 林野庁)
間伐面積	ha	2,502	269,000	—	—		
主伐面積	ha	542	82,122	—	—	}	県 : 令和5年度実績(農山漁村振興課調べ) 全国: 令和3年度実績(2023年森林・林業統計要覧: 林野庁)
林道延長(自動車道)	km	1,601	93,642	—	—		
林道密度	m/ha	8.3	5.4	—	—		
林業・木材産業の状況							
森林組合数	組合	9	613	—	—	}	県 : 令和5年3月末現在(団体指導課調べ) 全国: 令和5年3月末現在(令和4年度森林組合統計: 林野庁)
森林組合員数	人	28,392	1,486,979	—	—		
製材工場数	工場	87	3,749	—	—		県 : 令和5年3月末現在(団体指導課調べ) 全国: 令和5年3月末現在(令和4年度森林組合統計: 林野庁) 令和5年6月末現在 (令和5年木材統計: 農林水産省)
主な林産物生産量							
素材	千m ³	341	20,643	1.7	29	}	令和5年次実績(令和5年木材統計: 農林水産省、林業振興課調べ) 県 : 令和5年次実績(林業振興課調べ) 全国: 令和4年次実績(令和4年特用林産基礎資料: 林野庁) ※しいたけは、生に換算した重量
しいたけ	t	1,107	83,773	1.1	26		
ぶなしめじ	t	16,231	122,840	12.3	3		
えのきたけ	t	5,364	126,321	4.4	4		
たけのこ	t	4,485	21,798	27.0	1		
木ろう	t	10	22	46.4	2		
林業産出額							
木材生産	千万円	274	29,282	0.9	27	}	令和4年次実績 (令和4年林業産出額: 農林水産省)
薪炭生産	千万円	3	351	0.9	14		
栽培きのこ類	千万円	1,064	20,795	5.1	3		
林野副産物採取	千万円	14	569	2.5	7		
木材価格							
スギ(中丸太)	円/m ³	13,400	15,800	—	—	}	県 : 令和5年次県森連浮羽事業所実績値 (径18~22cm、4m) 全国: 令和5年次実績 (農林水産統計: 農林水産省)
ヒノキ(中丸太)	円/m ³	21,800	22,000	—	—		
緑化木							
生産本数	千本	3,316	56,444	7.6	3		県 : 令和5年度実績(林業振興課調べ)
生産額	億円	13	—	—	—		全国: 平成30年9月現在(緑化樹木の生産事例調査: 林野庁)

注1: 全国ランク・シェアは、全国の数値の統計年次・年度におけるものを示している。

注2: 「—」印は、シェア算出又はランク付けに適さないもの。

注3: 「年度」は4月から翌年3月まで、「年次」は1月から12月までを表す。

(5) 福岡県林業の全国的地位

項目				単位	全国シェア (%) 全国計	主 産 県				
						1	2	3	4	5
特用林産物	食用	きのこ類	えのきたけ	t	4.4 126,321	長野 74,853	新潟 19,005	宮崎 －	福岡 5,542	長崎 －
			ぶなしめじ	t	12.3 122,840	長野 51,580	新潟 21,484	福岡 15,061	香川 －	茨城 3,261
			まいたけ	t	6.7 56,763	新潟 36,621	静岡 4,996	福岡 3,824	三重 －	長野 2,645
			エリンギ	t	4.7 37,798	長野 15,962	新潟 11,884	広島 －	福岡 1,788	北海道 －
		その他	たけのこ	t	27.0 21,798	福岡 5,875	鹿児島 5,251	京都 3,053	熊本 1,482	石川 837
	非食用	木ろう		t	46.4 22	愛媛 11	福岡 10	長崎 1	宮城 0.2	石川 0.2
		竹炭		t	52.9 426	福岡 225	鳥取 98	徳島 －	千葉 －	熊本 7
	緑化木	生産本数			千本	7.6 56,444	愛知 17,446	愛媛 10,731	福岡 4,292	東京 4,241
生産面積			a	20.1 388,832	福岡 78,148	熊本 65,326	愛知 33,104	千葉 31,649	東京 31,196	

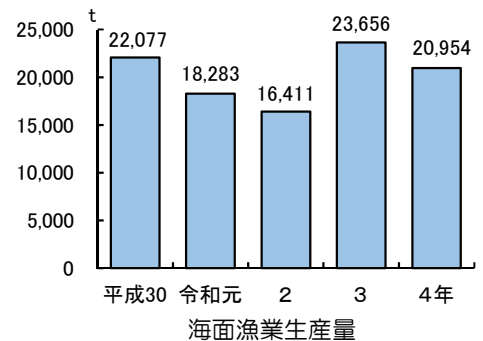
資料：（特用林産物）令和4年林野庁特用林産基礎資料・令和4年次実績
（緑化木）緑化樹木の生産事例調（林野庁）・平成30年9月現在

3 水産業

○海面漁業生産量

(海面漁業生産量(沿岸漁業)は前年比11%減の20,954t)

- ・令和4年の本県における海面漁業生産量(沿岸漁業)は、前年比11%減の20,954t。
- ・主な魚種別の生産量は、ブリ類が、前年に比べ471t増の2,694t。来遊が少なかったマアジが、前年に比べ177t減の640t、マダイも前年に比べ69t減の1,450t。
- ・主な漁業種類別の生産量は、さし網6,489t、中小型まき網4,472t、船びき網2,275t、小型底びき網1,032t。

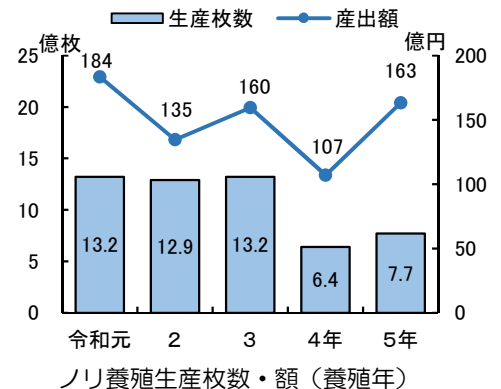


資料：農林水産省統計部「海面漁業生産統計調査」、漁業管理課調べ

○海面養殖生産量

(ノリ生産量は平年比32%減の7.7億枚)

- ・ノリの生産枚数は平年※に比べ32%減の7.7億枚。
- ・秋芽網は、品質が良く単価が高かったことから過去最高の生産額。
- ・一方で、12月中旬から高水温や晴天が続き、植物プランクトンが増殖したことで、栄養塩が減少し、冷凍網生産が低調。
- ・県では、漁場の調査回数を増やし、海況情報を漁業者へリアルタイムで提供するとともに、3日先までの潮の高さや水温等の予測情報の提供を開始。
- ・平均単価は、平年に比べ8.16円高の21.07円/枚で、生産額は平年に比べ11%増の163.1億円。



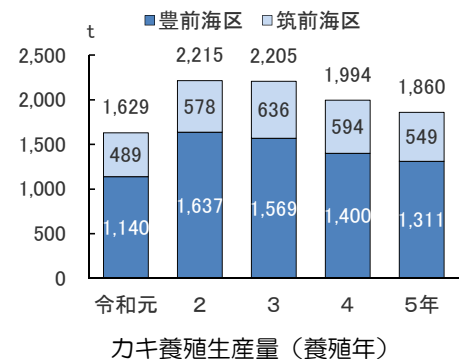
資料：水産振興課調べ

※生産枚数の平年値：平成30年～令和4年の5か年平均。

(カキ養殖生産量は平年並みの1,860t)

- ・カキの養殖生産量は平年※並みの1,860t。
- ・県の指導に基づく食害防止対策や養殖管理を徹底した結果、平年並みの生産を維持。

※生産量の平年値：平成30年～令和4年の5か年平均。

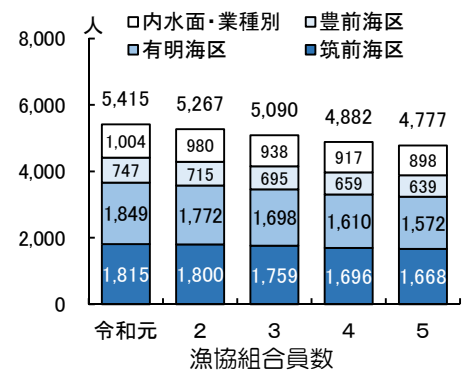


資料：水産振興課調べ

○漁業協同組合員数

(漁業協同組合員数は4,777人)

- ・漁業協同組合員数（内水面を含む）は、前年度に比べ2%減の4,777人。
- ・筑前海区が1,668人、有明海区が1,572人、豊前海区は639人、内水面・業種別は898人。



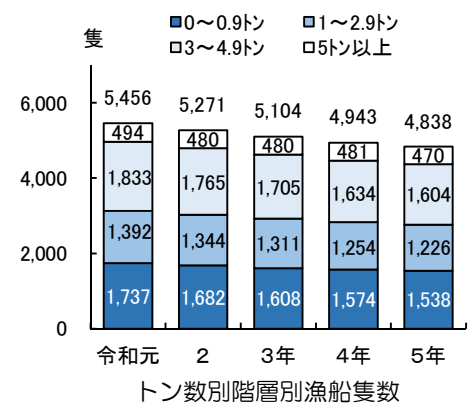
資料：漁業管理課調べ

注：令和5年度は速報値

○漁船隻数

(漁船隻数は4,838隻)

- ・漁船隻数は、前年に比べ2%減の4,838隻。
- ・小規模漁業を営む5トン未満の船4,368隻で全体の90%を占める。



資料：漁業管理課調べ

(1) 筑前海区

(サバ類、ブリは好調、カキ、真珠は平年並みを維持)

- ・令和5年度の漁船漁業の漁獲量は、サバ類、ブリは平年を上回り好調、マアジは平年並み。
- ・カキ養殖及び真珠養殖は、前年度に引き続き平年並みの生産。
- ・クルマエビ130万尾、アワビ48万尾、アカウニ24万尾、トラフグ31万尾の種苗放流を実施。



市場に出荷されたブリ

トピック

○鐘崎あまはえ縄船団が農林水産祭で内閣総理大臣賞を受賞

- ・令和5年11月23日に東京都で令和5年度農林水産祭式典が開催され、鐘崎あまはえ縄船団が内閣総理大臣賞を受賞。
- ・内閣総理大臣賞の受賞は、昨年(令和4年)の豊前海区に続き2年連続の快挙。
- ・筑前海区では漁業者自らが水温や潮流などの観測を行い、そのデータを九州大学が計算することで、3日先までの海況予測を漁業者に配信するシステムを構築。
- ・当船団は、県や大学と連携し海況予測の精度向上に努め、その予測を漁場選定に活用することで、操業コスト削減や操業時間短縮を実現。
- ・今回の受賞は、こうしたスマート漁業の導入により、経営改善につながった取組が評価されたことによるもの。



内閣総理大臣賞受賞の様子

(写真提供：株式会社水産経済新聞社)

(2) 有明海区

(アサリ資源が増加、ノリの生産枚数は平年比7割で生産額は1割増)

- ・ノリ養殖は、晴天が続いたことで開始前から植物プランクトンが長期にわたり発生し、令和5年度の生産枚数は平年に比べ33%減の7.7億枚であったが、平均単価は21.02円/枚と過去最高値で、生産額は161億円と10%増。
- ・アサリは、河口域の覆砂漁場を中心に大量発生した稚貝を、河川水の影響を受けにくい漁場に移植する取組を実施。
- ・クルマエビ100万尾、ガザミ240万尾の種苗を放流。



アサリ稚貝の移植

(3) 豊前海区

(マゴチ、ナマコの漁獲が好調)

- ・令和5年度の漁船漁業の漁獲は、マゴチやナマコが好調。ヨシエビ、シバエビは平年並み。
- ・カキ養殖は、秋季に成長の遅れがみられたが、その後、成長、身入りとも回復し、順調に生産。
- ・水産資源の維持に向け、クルマエビ83万尾、ヨシエビ224万尾、ガザミ235万尾の種苗放流を実施。また、卵を持ったガザミの雌を保護するため、甲羅に「トルナ」と書いて、海に戻す取組を継続。



漁獲好調だったマゴチ

(4) 内水面

(アユの漁獲は平年並み)

- ・令和5年度のアユの漁獲は平年並み。
- ・アユは、内水面漁連で生産した種苗等を県内10河川に34万尾放流。
- ・エツは、下筑後川漁協で生産した種苗を筑後川に32万尾放流。
- ・コイヘルペスウイルス病（KHV）は、養殖場や新たな天然水域での発生なし。
- ・錦鯉は、県が防疫対策等の指導を行い、イギリス、ベトナム、タイをはじめとする18か国に輸出。



人工生産したエツの稚魚

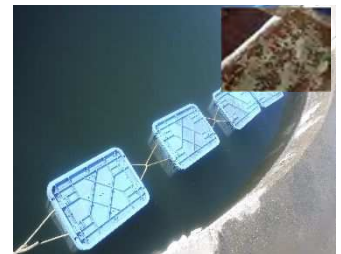
トピック

○ アユ資源の回復に向け受精卵を放流

- ・令和5年梅雨前線豪雨により、筑後川と矢部川に多くの土砂が流入し、アユの産卵場の一部が泥で埋まるなど、産卵場としての機能が低下。
- ・アユは一年魚であり、秋の産卵・ふ化状況が翌年春のアユの資源量に大きく影響。
- ・このため県では、海に下る仔アユを確保するため、緊急的にふ化直前の受精卵約8,000万粒を河川に放流。
- ・放流した卵は数日後にふ化し、順調に降河。令和6年2月から4月にかけて、多数のアユの稚魚の遡上を確認。



アユの採卵作業



受精卵収容力ゴの設置
(ふ化後力ゴから出て海へ)

(5) 福岡県水産業の主要指標

区分 分項目	単位	県合計	海面漁業				内水面	全 国 ランク	備 考
			計	筑前海	有明海	豊前海			
経営体数	経営体	2,434	2,386	1,226 ^{*1}	794	366	48	12	平成30年値 (2018年漁業センサス) *1:筑前海には遠洋・沖 合漁業を含む
就業者数	人	—	4,376	1,917 ^{*2}	1,880	579	—	12	平成30年値 (2018年漁業センサス) *2:筑前海には遠洋・沖 合漁業を含む
	うち男性	人	—	3,633	1,811	1,403	—	12	
	うち女性	人	—	743	106	477	—	8	
水域面積	km ²	—	—	約7,000	171	930	河川 延長 2,205km	—	水域面積 (筑前海) ・隣接県との主要な陸地 間、島間の中間線を結 ぶ線に囲まれた本県漁 船が操業する水域の面 積
海岸線 の長さ	km	—	—	420	47	109	人工湖 31か所	—	(有明海・豊前海) ・共同漁業権漁場の面積 (内水面)
最大水深	m	—	—	120	15	15	溜池 4,777か所	—	・県土整備部河川管理課資 料 ・農林水産部農村森林整備 課資料
共同漁業権 免許件数	件	75	62	52	4	6	13	—	令和6年3月31日現在 (漁業管理課調べ、水産振 興課調べ)
区画漁業権 免許件数	件	171	149	58	59	32	22	—	
漁船数	隻	4,838	4,679	2,018 ^{*3}	2,135	526	159	—	令和5年12月31日現在 (漁業管理課調べ) *3:筑前海には遠洋・沖 合漁業を含む
漁協数	漁協	41	32	7	17	8	9 ^{*4}	—	令和6年3月31日現在 (漁業管理課調べ) *4:内水面には業種別 組合の福岡県養鰻を 含む
漁組合員数	人	4,777	3,879	1,668	1,572	639	898 ^{*4}	—	
漁生産量	t	47,044	46,800	46,800			244	21	令和5年値 (農林水産省「漁業・養殖 業生産統計(概数)」、漁業 管理課調べ、水産振興課 調べ)
	漁船漁業 生産量	t	18,267	18,200	18,200		67	26	
	養殖業 生産量	t	28,777	28,600	28,600		177	11	
漁産出額	百万円	29,484	29,190	10,064	16,804	2,324	294	15	令和4年値 (農林水産省「漁業産出 額」、漁業管理課調べ、水 産振興課調べ)
	漁船漁業 産出額	百万円	12,589	12,486	9,427	1,635	103	19	
	養殖業 産出額	百万円	16,894	16,703	637	15,169	898	14	

注1：全国ランクは海面漁業の数値で比較。

注2：原則として単位未満で四捨五入しているため合計と内数の計は必ずしも一致しない。

(6) 福岡県水産業の全国的地位

区分 項目	単位	全国シェア 全国計	主産県				
			1	2	3	4	5
マダイ	t	9.4% 15,501	兵庫 2,175	長崎 2,088	愛媛 1,464	福岡 1,450	愛知 648
イサキ	t	9.0% 3,462	長崎 1,136	島根 355	福岡 310	山口 211	三重 188
チダイ	t	13.4% 1,788	長崎 362	福岡 240	宮城 186	石川 91	新潟 85
キダイ	t	3.8% 3,979	長崎 1,840	島根 808	山口 471	福岡 151	福井 113
アマダイ類	t	7.3% 1,186	山口 250	長崎 183	島根 135	秋田 88	福岡 86
コノシロ	t	4.4% 3,034	千葉 1,328	神奈川 530	熊本 398	福岡 134	大阪 107
サワラ類	t	7.8% 10,269	京都 1,075	石川 878	福岡 796	福井 783	兵庫 658
ガザミ類	t	11.1% 1,433	愛知 369	宮城 225	福岡 159	長崎 152	熊本 102
タコ類	t	3.3% 22,285	北海道 14,077	宮城 986	青森 840	福岡 746	岩手 739
ナマコ類	t	5.0% 5,349	北海道 1,743	青森 668	山口 452	石川 286	福岡 266
ノリ養殖	生産枚数 (百万枚)	15.7% 4,936	兵庫 1,234	佐賀 988	熊本 841	福岡 774	宮城 281
	産出額 (億円)	15.6% 1,044	兵庫 260	佐賀 223	熊本 183	福岡 163	宮城 63

資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」、漁業管理課調べ、水産振興課調べ

注1：ノリは令和5年養殖年（令和5年10月～6年4月）を、その他は令和4年の数値を表示。